

平成22年5月7日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：19390180
研究課題名（和文） 女性特有の reproductive health 及び保健習慣と疾病についての大規模疫学調査

研究課題名（英文） Epidemiologic Cohort Studies on Women's Health Promotion

研究代表者 藤田 利治（FUJITA TOSHIHARU）
統計数理研究所・データ科学研究系・教授
研究者番号：30175575

研究代表者の専門分野：疫学

科研費の分科・細目：社会医学・公衆衛生学・健康科学

キーワード：コホート研究、死亡率、看護従事者、要介護高齢者、医療サービス、
介護サービス、生存時間分析

1. 研究計画の概要

本研究では、2つのコホート研究のデータを使用して、検討可能な疾患発生や死亡についてのリスク要因の検討を行い、また介護サービス受給や医療サービス受療状況を含む個人特性と死亡や要介護度の変化などとの関連を明らかにすることを目的としている。

第1の女性看護職を対象としたコホート研究では、長期間の追跡調査とデータマネジメントの継続実施に参加している。このコホート研究では、疾病の既往の実態と、発生頻度が比較的多い疾患（高コレステロール血症、高血圧、子宮筋腫、子宮内膜症、良性乳腺腫瘍など）の発生の実態を明らかにし、reproductive health・保健習慣などとの関連を分析することを目的としている。

第2の要介護高齢者コホート研究では、重篤な疾患や死亡の発生の関連要因を短期間の追跡調査で明らかにするため、地域の協力を得て要介護認定のなされた要介護高齢者を対象とする地域コホートを設定した。そして、介護認定審査にかかわる情報及び住民基本台帳に基づいて、要介護度の変化や死亡についての追跡調査を実施し、さらに介護サービス及び医療サービスの受給状況の情報を収集した。そして、要介護高齢者の死亡率や要介護度の変化などに対して、高齢者の特性、介護サービス利用状況及び医療サービス利用状況などとの関連明らかにし、要介護高齢者の要介護度進展抑制や健康維持につなげる介護サービス及び医療サービスのあり方を示して対策につなげる。

2. 研究の進捗状況

第1の女性看護職コホート研究では、コホート研究のデザイン論文を公表するとともに、疾病の発生頻度によって研究可能性がどの程度であるかを推計した論文を報告した。この中で、調査開始時のデータの年齢階級別の有病率に基づいて疾病の推計発生率を見積り、追跡コホート規模による研究可能性の予測を行った。また、調査開始時のデータに基づく学会発表を行っている。

このコホート研究での調査は郵送による自由回答の多い自計式のものであるために、回答には異常値や論理的不整合が多発していた。特に、経時的に調査を繰り返した場合に、そうした不整合が疾患発生であるのか、誤記入であるかは重大な問題である。そこで、新たに開発したデータマネジメント・システムを使用してデータクリーニングを継続している。このコホート研究においては長期間の精度の高い追跡調査を必要としていることから、効率的なデータマネジメント実施と追跡漏れ最小化対策が必須であり、その継続が重要である。

第2の要介護高齢者コホート研究は、要介護状態の悪化や死亡の発生について短期間の追跡調査で検討を行うために設定した要介護高齢者を対象とする地域コホート（約2,300人）である。2003年4月から2009年8月までの介護認定審査にかかわる情報、住民基本台帳の情報から、要介護度の変化や死亡についての追跡調査を完了した。さらに介護サービス及び医療サービスの受給状況の情報を収集した。現在、これらの情報のデー

タマネジメントを実施している。また、学会発表として、要介護度については、各申請時点での要介護度情報を更新して用いることによって死亡との関連の実態を適切に把握可能なこと、介護保険の新規申請者では死亡リスクが増大していること、寝たきり度と認知症度では死亡リスクとの関連が異なることなどを報告した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

稀な健康事象の発生に関する前向きコホート研究では目的とする成果が出るために長期間を要する。第1のコホート研究はこれに相当する。本研究ではデータマネジメントの経験を活用して、第2の要介護高齢者コホートを設定し、要介護度の変化や死亡といった比較的短期間に発生する健康事象を対象としたことで最終年度(2010年度)中に成果を取りまとめることができる。

4. 今後の研究の推進方策

第1の女性看護職コホート研究については効率的なデータマネジメント実施と追跡漏れ最小化対策を継続することが重要である。第2の要介護高齢者コホート研究については、データ固定を確実にを行い、最終年度である2010年度に、要介護高齢者の死亡率や要介護度の変化などについての関連を高齢者の特性、介護サービス利用状況及び医療サービス利用状況などから明らかにし、成果を報告する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- 1) Fujita T, Hayashi K, Katanoda K, Matsumura Y, Lee JS, Takagi H, Suzuki S, Mizunuma H, Aso T. Prevalence of diseases and statistical power of the Japan Nurses' Health Study. *Industrial Health* 45: 687-694, 2007. (査読あり)
- 2) Hayashi K, Mizunuma H, Fujita T, Suzuki S, Imazeki S, Katanoda K, Matsumura Y, Kubota T, and Aso T. Design of the Japan Nurses' Health Study: a prospective occupational cohort study of women's health in Japan. *Industrial Health* 45: 679-686, 2007. (査読あり)

[学会発表] (計9件)

- 1) 丸茂紀子、藤田利治、坂本由之、三浦裕貴、後藤忠雄、三徳和子. 要介護高齢者の要介護度と死亡との関連. 第68回日本公衆衛生学会総会; 2009年10月22日; 奈良.
- 2) 三浦裕貴、藤田利治、坂本由之、丸茂紀子、後藤忠雄、三徳和子. 介護保険の申請区分および施設利用の実態とその後の生存状況. 第68回日本公衆衛生学会総会; 2009年10月22日; 奈良.
- 3) 三徳和子、藤田利治、丸茂紀子、三浦裕貴、後藤忠雄、坂本由之. 要介護高齢者における認知症度と死亡との関連. 第68回日本公衆衛生学会総会; 2009年10月22日; 奈良.
- 4) 松村康弘、藤田利治、李廷秀、磯博康、鈴木庄亮、安井敏之、水沼英樹、麻生武志、林邦彦. 女性看護職における乳がんの罹患状況およびその妥当性の検討: Japan Nurses' Health Study (JNHS). 第18回日本疫学会学術総会; 2008年1月25日; 東京.
- 5) 林邦彦、李廷秀、松村康弘、藤田利治、鈴木庄亮、片野田耕太、今関節子、水沼英樹、久保田俊郎、麻生武志. 女性看護職における身体活動レベルからのエネルギー消費量の推定: Japan Nurses' Health Study (JNHS). 第18回日本疫学会学術総会; 2008年1月25日; 東京.
- 6) 李廷秀、林邦彦、松村康弘、藤田利治、鈴木庄亮、片野田耕太、今関節子、水沼英樹、久保田俊郎、麻生武志. 働く女性における勤務中の身体活動強度別時間の実態: Japan Nurses' Health Study (JNHS). 第18回日本疫学会学術総会; 2008年1月25日; 東京.
- 7) 林邦彦、水沼英樹、藤田利治、鈴木庄亮、今関節子、片野田耕太、李廷秀、松村康弘、久保田俊郎、麻生武志. JNHSの研究デザインとベースライン調査: 対象者の募集を終了して. 第22回日本更年期医学会学術集会; 2007年10月17日; 東京.
- 8) 藤田利治、松村康弘、片野田耕太、李廷秀、久保田俊郎、水沼英樹、麻生武志、林邦彦. 女性看護職における疾病の既往割合: Japan Nurses' Health Study. 第22回日本更年期医学会学術集会; 2007年10月17日; 東京.
- 9) 片野田耕太、藤田利治、松村康弘、李廷秀、久保田俊郎、水沼英樹、麻生武志、林邦彦. 女性看護職におけるホルモン補充療法使用状況と使用者の属性. 第22回日本更年期医学会学術集会; 2007年10月17日; 東京.